

(様式1)

令和元年度 自己評価表(最終報告)

愛媛県立新居浜工業高等学校

学校番号 (7)

教育方針	教育基本法及び学校教育法にのっとり、我が国の未来を切り拓く、豊かな人間性と創造性を身に付けた実践的技術者として、世界の平和と人類の福祉の向上に貢献し得る人物を育成する。	重点目標	自ら学び、自ら鍛え、たくましく生きる生徒の育成 ―ものづくりを通じた人づくり、夢づくり、 そして、魅力ある学校づくり― ○ 人としての在り方生き方を身に付けた、心豊かな生徒の育成 ○ 確かな学力の定着と実践的キャリア教育の推進による進路の実現 ○ 自己有用感を高め、充実感や達成感を味わわせる活動の推進 ○ 地域を愛する優しい心と誠実さを持った人材の育成
------	--	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	基礎学力の向上	常に授業改善に取り組むことで、分かる授業を推進し、基礎学力を向上させる。 適切な家庭学習時間を確保することで、学習習慣を確立させる。 技能審査の成果の単位認定を促進することで、主体的な学習をさせる。	C	「授業は分かりやすく、質問に丁寧に答えてくれますか。」の授業評価のアンケートでは、91.4%から、93.9%へ上がっている。 「シラバス(授業計画)どおりに授業がなされていますか」の授業評価アンケートでは、98%を得ており実施状況は良好である。	授業評価アンケートの実施回数を増やし、より細かく分析し、わかる授業を100%に近づけていきたい。 各教科において基礎学力向上のために復習やプリント作成など授業内容の改善を検討したい。
	教科指導の充実	アクティブラーニングの在り方について研究し、その実践に努める。またICT機器を積極的に活用した授業の推進を図る。 年間2回の相互授業参観週間を設け、積極的に他の教員の授業を参観し、指導方法の改善に努める。 総合教育センター研修や学校訪問研修等に積極的に参加し、教科指導力の向上を図る。	B	校内の研究授業及び授業研究会は、ほぼ計画通りに実施できた。また、ICT機器を利用した研究授業も実施できた。相互授業参観数は一人当たり1.5回となり、前年度より微増である。 学校訪問研修に28名、総合教育センター研修に8名が参加し、前年度より大幅に増加した。	校内研究授業を計画的に実施する。 主体的・対話的な深い学びの授業の在り方や、ICT機器を積極的に活用した授業の研究を継続する。 年間2回の相互参観週間を設け、授業改善に努める。 学校訪問研修等への積極的な参加を呼びかける。
学校経営	開かれた学校づくりのための学校公開と情報発信	学校行事等の学校情報や各課からの保護者向けの連絡事項を、学校ホームページや携帯メール等を利用して発信する。	A	ホームページの内容も充実し、運動会や新工祭などの学校行事や部活動の様子などがよく分かるように工夫され、多くのアクセスがある。また、行事の案内や校費納入などの保護者への案内を、文書での案内と同時にメールでもお知らせしており、加入率も90%を超えた。「PTAだより」にて諸行事の実施の様子や行事予定を発信しており、保護者からも高評価を得ている。	ホームページやメールの活用により多くの連絡事項・学校情報を適切に発信していきたい。また、メールの登録率は過去最高の92.5%で、目標の90%以上を達成しており、1年生は95.5%であり、学校全体で95%以上を目標にしたい。
		PTA活動や学校行事への参加者の増大を図るとともに、保護者や地域住民からの提言を参考に改善に努める。	C	「新工祭」が平日開催となったことで、うどん・リサイクルショップへのボランティア参加者が少なくなり、少し苦労した。また、保護者企業見学会やレクバレー大会の参加者も減少傾向にあるが、参加者の評価は高かった。	行事の日程による影響が大きいため、検討が必要。ホームページなどで活動状況のアピールを行い、興味を引くような呼びかけの工夫が必要である。さらに、保護者同士での繋がりを生かせるような活動にしていきたい。

工業教育	実践的技術者としての知識・技術の充実	ジュニアマイスターの取得対象者数をゴールド10人以上、シルバー20人以上にし、卒業時の資格・検定取得数を1人当たり平均5個以上にする。	C	昨年度、取得対象者数が増加したので、今年度の目標値をゴールドは5人、シルバーは10人増やし努力してきた。その結果、ゴールドは5人、シルバーは1人、目標値に届かなかった。また、卒業時の1人当たりの平均取得個数は4.5個と、これも目標値に届かなかった。	今年度は思い切って高い目標を設定したので、残念ながら達成できなかったところもあるが、それを達成するには、かなり努力させなければならないことも理解できた。この経験を生かして頑張っていきたい。
	ものづくり教育の推進	ものづくりコンテスト等各種競技大会で、全国大会出場3部門以上を目指す。 取組内容の紹介・発表会等を積極的に開催するなど、その成果を校外内に広く知らしめる啓発活動を行う。	A	溶接競技、マイコンカーラリー、ロボットアメフト、マイクロロボコン、科学研究プレゼンテーション大会、ボランティア活動の6部門において、全国大会クラスの出場・受賞を果たした。溶接競技においては、被覆アーク部門で二連覇を達成し、ボランティア活動では日韓国際環境賞を受賞した。 また、東予ものづくり祭、新居浜まちなかものづくり体験教室、公民館での文化祭などいろいろな地域イベントに積極的に参加し、学校・学科の取組内容をアピールできた。	各種競技会については、来年度も引き続き取組の成果が発揮されるよう努力を継続していきたい。地域連携については、これからも生徒がいきいきと活躍でき、積極的に学校のPRができるよう頑張りたい。
	地域貢献を目指して	一日体験入学、ものづくり教室、出前授業、製作物寄贈・メンテナンス等の活動など、校外内において地域と連携した有意義な取組を行う。	A	一日体験入学、ものづくり教室には、たくさんの中学生とその保護者に御参加いただいた。 また、西中での出前授業や公民館でのイベント、福祉施設や学校等への車いすの修理・寄贈、上記の地域イベントなどのボランティア活動に積極的に参加し、地域連携を強固にした。	来年度も引き続き、地域貢献できるよう可能な限り頑張りたい。
ICT教育	ICT教育の充実	高速通信やWi-Fi接続に対応した校内ネットワークの構築、コンピュータ教室の利用推進、プロジェクト等のICT機器を活用した教育を推進する。	B	本年度、学習系Wi-Fiシステムの工事が行われ、令和2年3月1日より運用開始となった。この対応のため、教職員用端末の授業活用を推進した。ICT機器を活用した授業は、各教職員で進められ、多くの成果がある。3学期より、WDAを活用し、プロジェクトとPC間の無線化を完了した。しかし、教室固定のプロジェクトの導入が遅れているため、教員間の利用に温度差がある。	この数年で、校内LANやICT機器、最新のネットワークシステム、学習系Wi-Fiシステムなどが急速に設置され、各種機器の充実が図られている。しかし、急激な機器の増設に伴い、サーバ等の制御面に不具合が生じている。高校教育課に報告し改善を求めたい。また、学習系Wi-Fiシステムの運用の検討が必要である。
	情報セキュリティ教育の向上	「教育の情報化」に対応した校内の情報セキュリティの充実に努め、「情報モラル教育」「学校における著作権」等の研修や教育活動を通して、「教育の情報化」の推進に努める。	C	昨年、県下統一の「愛媛県情報セキュリティポリシー」による運用が開始された。本年度は、校務支援システムの運用が開始され、情報セキュリティが厳しくなった。現段階で多くの問題もなく稼働しており、情報セキュリティの意識が向上したと思われる。 生徒による機器損傷の事例等が発生しており、生徒に「情報モラル教育」「学校における著作権」の対応をする必要がある。知識の習得はできているが、その実践はできていないのが今後の課題である。	学習系Wi-Fiシステムの運用を通して、「情報モラル教育」を推進する必要がある。また、生徒に対応した講演会の開催や授業を通じた教育が必要であり、今後検討していく予定である。また、日々の情報収集と教職員研修に努めたい。
特別活動	充実感ある学校行事の推進	運動会、新工祭、グループマッチなどの学校行事に、生徒を積極的に参加させ、達成感を味わわせるとともに、生徒会役員の主体性を引き出しながら、生徒会活動の活性化を図る。	B	運動会、新工祭、グループマッチなどの学校行事に積極的に参加し、達成感を味わわせることができた。生徒会活動も生徒会役員を中心に各行事に意欲的に取り組むことができた。	生徒一人一人のさらなる意欲的な取組を促していきたい。また、生徒会活動も自主的・意欲的に取り組ませ、活性化を図っていきたい。
	地域共生プロジェクト	交流体験（ボランティア活動・保育・介護体験など）に積極的に参加させ、豊かな人間性を育む。	C	災害防止ボランティアや運動会での園児とのダンスを通して、地域との交流を深めることができた。また、生徒会・福祉委員会を中心にボランティア活動にも意欲的に取り組んだ。	地域との連絡を密にし、連携を強化、地域との交流を深め、地域に貢献する活動を意欲的に取り組ませたい。

	部活動の充実	各部とも目標を高く掲げ、その達成に向けて精神力・技術力の強化を図る。 3年間継続して活動できる体制を作って、部の活性化を図る。	B	各部とも意欲的に活動し、成果を上げている。美術部が初めて全国高等学校漫画選手権大会に出場するなど8大会も全国大会に出場することができた。	各部ともに意欲的な活動ができていたものの今年度は2年生の運動部への加入率の低下が目立った。3年間継続できる体制を工夫し、意欲的な活動を促したい。
生徒指導	規範・防犯意識の育成	社会のルールを守り、健全な生活の確立を図る。 自転車置き場の整理整頓及び自転車の施錠を徹底させ、防犯意識の定着を図る。 登校時の交通指導を行い、ルール遵守の意識を高める。	C	生徒・保護者共に、概ね良い評価である。交通ルールの指導に関しては、生徒からの評価は高いが、教職員の自己評価と地域からの評価は高くない。登下校の様子は、以前に比べると、落ち着いた雰囲気ではあるが、ヘルメット未着用や道路交通法違反は依然として見受けられる。	常日頃からの地道な指導を継続することでしか規範・防犯意識の向上は図れない。校外外における生徒の雰囲気は決して悪くなく、引き続き指導を継続していきたい。
	基本的習慣の確立	身だしなみの重要性を認識させ、高校生らしい身だしなみをする習慣を定着させる。 保護者と双方向の関係を確立するとともに、生徒とのふれあいを深め、遅刻・早退・欠席の防止に努める。	C	服装規定に沿って、適切な身だしなみ指導を行っているかの問いに、生徒の評価が低い。また、教職員に対しての共通理解の体制ができていないかの問いに、教職員の評価が低い。生徒指導に対しての共通理解と実践に問題点があるようだ。しかし、保護者の評価は概ね良好である。	規範意識があまりにも低い生徒については、集団生活の基本から教え、個々の規範意識を養いたい。また、身だしなみ指導を始めとするいろいろな生徒指導に対して、共通理解で臨もうとする教職員自身の意識の向上が望まれる。
教育相談	教育相談の充実	生徒理解を深め、悩みや困り感を抱える生徒や、支援を必要とする生徒との相談活動を充実させる。	C	学校生活への適応に困難さを感じる生徒の現状を把握し、校内関係者と連絡、対応協議をしてきて、当該生徒への対応はある程度できていると考える。しかしながら、活動が特定の生徒に対する相談活動に集中しており、自発的に来談する生徒が少ないのが現状である。	全校生徒に対する呼びかけを行うとともに、生徒との信頼関係の構築に努め、気軽に相談しやすい環境づくりが大切であると思われる。また、次年度に向けて、学校生活全般に意欲を持っていない生徒に対する相談活動を、広い視野を持って実行していく。
	特別支援教育の充実	支援を必要とする生徒やその保護者との対話を行うことで、日頃の状況や行動を的確に把握し、支援活動に生かす。 外部の専門員からの指導・助言を受け、校内体制を充実させる。また研修の機会を生かし、特別支援教育への理解を深める。	B	保護者の協力体制が得られ、かつ信頼関係も築かれてきている。「障害者差別解消法」施行による「合理的配慮」の提供が求められているなか、保護者・本人との合意形成を行い、就労支援など、より具体性のある支援を行った。 本年度は、教職員研修を、NHK厚生文化事業団ビデオライブラリーから貸借した映像教材を視聴することで実施した。更生施設（刑務所）内で発達障害を抱えた青年に対して、再犯を防ぐという大きな目標のもと、所員が向き合う姿に学ぶべきところがあった。	特別な支援が必要な生徒に対して、直接的な関わりを持つ指導者の現状や困り感を、アンケートを通して具体的に把握しつつ、より実効性のある指導体制を、校内全体で構築していく。 継続して教職員研修を行っていく。
人権・同和教育	人権に配慮した個性の育成	思いやりの心、自尊感情の育成を目指す。 自他の大切さを理解するとともに、態度や行動で表現する力を養う。 市内のフィールドワークへの参加を通し、地域を愛する優しい心を持った生徒の育成を目指す。	B	本校生徒の日頃の生活態度から、自他を尊重する態度は育ちつつあるが、まだ十分とは言えない。一方、人権委員会や生徒会をはじめとする多くの生徒がフィールドワークや人権フェスへ参加でき、相手を思いやり人権を尊重しようとする雰囲気ができつつある。	教師が生徒理解に徹し、受容的な態度で生徒に接するとともに、生徒を励ます言葉がけを徹底する。 再度、ホームルーム活動のテーマを検討し、本校生徒の実態にあった学習内容を創造する。
	いじめ、差別のないクラス	互いの人格を尊重する意識を醸成し、いじめの兆候を見逃さず、早期解決に努める。	B	生徒の小さな変化も見逃さず、生徒への気配りを徹底することで、いじめの兆候を発見し、早期解決を見た事例が多くあった。	ホームルーム活動では、学習の成果が日々の生活態度に反映されることを重視し、相手の人格を尊重する心を育てていく。

進路指導	就職指導の充実	地域社会、保護者との緊密な連携を図り、生徒一人一人の適性に合った進路指導を推進し、進路の実現に努め就職内定率100%を目指す。	B	企業研究、職場見学、面談、面接指導などに多くの時間を費やし、一人一人の適性に合った進路指導を学校全体で推進した結果と、求人数の上昇などの社会的要因により、一次合格率が昨年度よりも高くなった。しかし、不合格になった生徒の中に、就職意欲の低下でその後未受験の生徒がいるため、就職率100%に至っていない。	企業の情報や、入社試験に向けての筆記・面接試験に必要な情報を収集・提供し、個々の適性に合った進路指導を学校・家庭を両輪として進めていく。
	進学指導の充実	進学補習や模擬試験等の実施及びオープンキャンパス、学校説明会への積極的な参加を促し、進路の実現に努め進学先決定率100%を目指す。	A	進学補習、オープンキャンパス・学校説明会への積極的な参加を促し、粘り強い小論文指導などの試験対策の結果、全ての生徒が納得のいく進路実現を目指した。	入学試験に向けて、必要となる情報を提供するほか、個々の適性に合った進路指導を学校・家庭を両輪として進めていく。
学校安全	学校安全の充実	定期的に施設設備における巡視点検を行い、生徒の安全の確保と教育環境の向上・改善に努める。	C	教職員が3.7、生徒が4.0、保護者4.1、地域が4.1であった。施設設備の改善が老朽化に追いついていない現状がある。	より細かい点検計画を作る必要がある。迅速に対応し、修繕を行っていく必要がある。
		委員会活動を中心に校舎、庭園、設備等の清掃を行い、校内の美化向上に努める。	C	教職員が3.5、生徒が4.1であった。掃除の音楽の導入によってよい効果は得られたものの、生徒の清掃に対する意識は依然として低い。	生徒への注意を行い、教員の意識統一を図っていく必要がある。
		避難訓練やAED、緩降機、消火器等の使用訓練を通して、危機に対応できるスキルを身に付けさせる。	C	教職員が4.2、生徒が4.3、保護者4.1、地域が4.1であった。今年度は予告なしの初期対応行動訓練を実施した。災害に対する意識はまだまだ低い。	訓練の内容の見直し、講演会、研修会などを実施していく必要がある。
学校保健	学校保健の充実	健康診断結果に伴う事後措置に重点を置き、事後措置の必要な生徒がきちんと関係医療機関を受診することができるよう、受診勧告回数を増やしたり、『保健だより』にて本校生徒の健康状況について情報提供したりするなど、健康意識を高めさせる。また、個別指導の機会を多く持ち、事後措置が必要な生徒一人一人の状況や環境に応じた対応を行う。	C	健康診断後の受診勧告だけでなく、学期末の保護者懇談会で、担任を通じて保護者に受診状況の確認、受診勧告してもらった。その結果、報告書の提出はないが受診している生徒や眼鏡やコンタクトレンズで矯正をしている生徒がいることがわかった。また、保健だよりや掲示物を通じて、受診状況や受診の大切さについて情報提供を行った。しかし、全体的に受診への意識は低い。	未受診の生徒については、担任や部活動顧問等関係職員と連携し、健康状況の確認、勧告等を行う個別指導の機会を増やしたい。また、事後措置については、家庭の協力が必要であるため、今後も懇談の機会や保健だより等を通じて保護者への情報発信をしていきたい。
		毎月発行している『保健だより』の内容を更に充実させる。生徒保健委員が中心となり、生徒らに自らの健康について関心を持たせるとともに、『保健だより』を通じて、保護者の意見を聴取したり、保護者懇談会等を活用することで、保護者への啓発、協力依頼に努める。	B	保健だよりについては、その月や季節の話題を取り入れながら、内容の充実にも努めている。また、保護者の目に届くように発信日にはメール配信も行った。しかし、生徒や保護者からの意見を取り入れたものにはなっていないと感じる。	引き続き保健だよりやホームページへの掲載を通して、保護者への情報発信を行ってきたい。また、懇談会や保健だよりを通じて、保護者の意見を取り入れることができるような手立てを考えていきたい。
学校行政事務	教育環境の整備	節約推進の徹底及び計画的な予算の執行により教育施設・設備の整備充実を図る。	B	節約推進の率先、周知を行っている。現状把握に努めて、より効果的な整備を計画に行っている。	優先度を検討し、先を考えながら、一つずつ整備を行ってきたい。
	会計処理の適正な執行の推進	県費、私費会計のより有効で効率的な計画を行い、適正な処理体制のもとに予算の執行を行う。	B	予算の厳しい中で、節約をしながらより有効で効果的な執行に努めた。今後も、長期的な計画も視野に入れながら、より適正な執行に努めたい。	より多くの情報を収集し、有効で効率的な計画の上、適正な執行をする。

※評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。